

# 「札幌黄」生みの親碑に

タマネギの本格的な栽培を日本に初めて伝えた札幌農学校(現北海道大)教授、ウィリアム・ペン・ブルックス(米国、1851~1938年)の功績をたたえる「ブルックス博士顕彰碑」が、札幌村郷土記念館(札幌市東区)の前庭に建てられた。札幌特産のタマネギ「札幌黄」の原種を米国から取り寄せて栽培を指導したことを同記念館保存会(橋場善光会長)が確認した。(片岡正人)

## Kita Cul

キタカル

ブルックスが札幌農学校に着任したのは1877年(明治10年)。札幌黄の誕生にブルックスが深く関わっていたことは、「札幌村の玉葱産地としての名声は全くブルックスの指導の賜物」などと語っていた植物学者、宮部金吾農学校2期生)の発言などからも推測されていた。しかし、いつ、誰が、どの

## タマネギ栽培 ブルックス博士顕彰

ように、原種をもたらしたのか、長い間はつきりしていなかった。そこで保存会は6年前から、解明に取り組んでいた。

最近になって、逢坂信悟著「クラーク先生詳伝」(19

56年)の中に、ブルックスが明治15年頃、タマネギ栽培を実地指導したとする北海道帝国大初代総長、佐藤昌介(農学校1期生)の手紙の内容が紹介されているのを確認。さらに、原種発祥の地、米ダン

パースの古文書館からも貴重な資料を得た。こうして、ブルックスが「イエロー・グローブ・ダンパース」という品種を取り寄せて農学校の農園で試作を重ね、旧札幌村の農家、武井惣蔵らに直接指導して、後に札幌黄となる優良品種の生産を成功させたという業績が具体的に把握できた。

顕彰碑は、1978年に設置された「わが国の玉葱栽培の地にはじまる」の碑のとなり建てられた。高さ2・2メートル、幅1・5メートル、碑文ではブルックスを「札幌黄の生みの親」と位置付け、その業績を写真とともに紹介している。

今年4日に行われた除幕式には秋元克広・札幌市長ら約70人が出席。オンライン参加したブルックスのひ孫からも「北海道の農業発展に曾祖父が貢献したと認められ、感謝したい」とのメッセージが寄せられた。

同記念館の山田治仁館長は「長年の宿題がやっと解決し、石碑も建てることできた。これを機に、ブルックス博士の功績が未永く後世に伝えられれば」と話している。

ブルックス博士顕彰碑の設置を喜ぶ札幌村郷土記念館の山田館長(右)と玉井晶子事務局局長



る。9月1日現在の選挙人名簿登録者数は2万9123人。 報があった。同 搜索したところ

### 札幌市意見公募

市は10007人から計300055件の意見を集めた。将来像案に関する意見のうち、賛否については36・4%(10332件)で、うち賛成は82・2%だった。賛成意見としては「空港の機能強化が必要」「路線の拡充に

### 札幌市の歩み特

中央図書館 時計台などテーマ

### 市制100年

札幌市の市制施行100周年を記念した特別展「札幌市制の100年」が市中央図書館(同市中央区)で6年に描かれたみや地形を立休